

No.

全國徵兵論

冊一函八五

# 全國徵兵論

附改正徵  
兵令

福澤諭吉立案  
中上川彦次郎筆記

明治十七年一月刊行

86 冊

52

緒言

人トシテ身ヲ愛セザル者ナシ身ヲ愛スルノ  
 心アル者國ヲ憂フルノ心ナカル可ラズ方今  
 世界各國ノ交際日ニ開ケ月ニ旺シテ商  
 工農百般ノ事一トシテ競進ノ勢アラサルハ  
 ナシ就中兵制軍備ノ如キハ訓練精密到ラザ  
 ル處ナシ兵備ノ擴張瞬時モ猶豫ス可カラサ  
 ルノ秋ナリ苟モ我日本國ニ男子タル者ハ護  
 國ノ大義務アルトテ忘レズ奮テ精神ヲ此點  
 ニ注キ努メテ萬國對峙ノ力ヲ尽サザル可ラ  
 ザルナリ本編ハ曾テ時事新報ニ於テ先生ガ



全國徵兵ノ一ニ關シ論セラレタルモノヲ拔  
萃セシ處ナリ茲ニ一言ヲ記シテ緒言トス

# 全國徵兵論

附改正徵兵令

福澤諭吉 立案

中上川彦次郎 筆記

全國兵ハ字義ノ如ク全國ナル可シ

我政府ニテ始メテ徵兵ノ令ヲ布告スルキニ血稅ト云ハレタルヲアリ  
讀者モ當時コノ血稅ノ字面ニ就テ異議ナカリシヲナラシテ苟モ一國ヲ  
立テ、他ノ獨立國ニ交リ内外ノ不虞ニ備ヘントスルニハ兵力ノ用意  
ナカル可ラズ國ヲ護ルハ國民ノ義務ニシテ其護國ノ爲ニ資財ノ要ア  
レハ國民ヨリ之ヲ供ス之ヲ租稅ト云フ租稅ヲ出スノミニテハ尙未ダ  
足ラズ必スシモ國中ノ男子ガ其筋骨ノ力ヲ役シテ直ニ國用ニ供セザ  
ル可ラズ即チ徵兵ノ法ニシテ血稅ナルモノ是レナリ我國ノ陸軍ハ全  
國ノ男子ヲシテ悉ク兵ニ役スルノ法ニシテ苟モ封建門閥ノ制度ヲ廢

シテ國民ヲシテ上下貴賤ノ別ナク同一様ノ法律ノ下ニ立タシムルハ兵役モ亦獨リ士族以上ノ事ニ非ス國民同一様ニ其責ニ任セザル可ラズ全國兵ノ法ハ廢藩ト共ニ興リテ正ニ今日ノ國情ニ適スルモノト云フ可シ抑モ全國兵ノ趣旨ヲ簡單ニ云ヘバ

第一 兵士ノ數ヲ多クス可キノ道ヲ開ク事ナリ封建ノ時代ニハ士族ノ數多シト雖モ其人口二百萬ニ過ギズシテ男子ハ其半數百萬ヨリ多カラズ今全國兵ノ法ニスレバ男子ノ數千八百萬ヲ得ベシ兵士ヲ取ル區域ヲ十八倍ニ増シタルモノナリ

第二 國役ヲ國中ニ平等ナラシムル事ナリ廢藩ノ後ハ士族ニ屬スル特典ハ全ク廢棄セラレテ他ノ三民ニ異ナラズ故ニ農工商トテ兵役ニ服スルノ務ハ士族ト一樣ナラザル可ラズ日本國中男子ト婦人ト區分シテ男子ハ悉皆服役スルノ法ヲ定メタルハ公平ノ旨ニ適フ

モノト云フ可シ

第三 全國ノ士氣ヲ振フテ活潑ナラシムル事ナリ封建ノ世ニ兵馬戰爭ノ事ヲ恐レズシテ勇武ナル者ハ士族ニ限り他ノ三民ハ兵事ヲ知ラズ砲聲ヲ聞キ兵器ヲ見ルモ尙且戰慄スル程ノ有様ナリシモノガ全國兵ノ法ト爲リテ國中ノ男子ガ徵兵期限ノ間服役シテ次第ニ交代スレバ苟モ日本國中男子ニシテ兵ヲ知ラザル者ナキニ至ル可シ士氣ヲ士族ニ限ラズシテ日本男子ニ普ネカラシムルモノト云フ可シ

以上記シタル如ク徵兵ノ法ハ兵ヲ取ルノ區域ヲ廣クシ全國ノ男子ヲシテ一樣ニ護國ノ義務ヲ負ハシメ國中一般ニ士氣ヲ振起スルノ旨ニシテ今日ノ世界中ニ國ヲ立テ、其獨立ヲ護ラントスルニハ此法ヲ棄テ、他ニ依頼ス可キ方便アル可ラズ我輩ニ於テ毫モ間然ス可キモノ

ヲ見ザルナリ然リト雖此法果シテ良法ナラバ我輩ハ其善良ナル精神ヲ擴達シテ遺ス所ナキヲ希望セザルヲ得ズ左ニ其次第ヲ述ベン  
 徴兵ノ法ハ國ノ爲ニ良法ナリ又要用ナリト云フト雖其徴ニ應スル者ノ爲ニ謀レバ苦役ナリト云ハザルヲ得ズ男子生レテ滿二十歳ニ至レバ郷里ヲ離レ三年ノ久シキ同一様ノ力役ニ身体ヲ勞シテ間斷アルコトナシ其身勞ハ尙忍ブ可シトスルモ公共ノ家屋ニ起居シテ公共ノ人ニ交リ公共ノ服ヲ服シ公共ノ食ヲ喰ヒ郷黨ノ居家團樂朋友遊戲ノ快樂ヲ失ヒ盡スノミナラズ服役ノ其間ハ陸軍ノ嚴法ニ制セラレテ甚々自由ナラズ加之一旦國ニ事アレバ先ツ其衝ニ當リ屍ヲ野ニ晒ラシテ血税ノ實ヲ終ル者少ナカラズ凡ソ人間ノ職業多クシテ何レモ皆多少ノ危険ヲ帶ヒザルモノナシト雖其危險ノ最モ近クシテ最モ明白ナルハ唯兵士ノミナリト云フモ可ナラン故ニ當局者ノ私ニ就テ考フレ

ハ此苦役ヲ免カレンコトヲ欲セザルモノハナカル可シ國中ノ男子等シク欲セザルモノナラバ等シク之ヲ強フルコソ公平ノ旨ニ適フモノナラン若シモ然ラズシテ男子ノ一部分ヲシテ役ニ當ラシメ之ニ關セザルガ如キハ人ヲシテ死ヲ以テ國ヲ護ラシメ我財產生命ヲ全ウシヤガラ己レ自カラ枕ヲ高ウシテ眠ルモノニ異ナラズ同國同胞ノ德義上ニ於テモ忍ブ可ラザルコトナリ  
 然ルニ今日ノ法ニ於テハ兵役ヲ免カル、者甚ダ少ナカラズ戸主ハ免カレ、老親アル長子ハ免カレ、官員ハ免カレ、學士ハ免カレ、無病ナルモ体格兵役ニ適ハザル者ハ免カル、等ニテ既ニ服役ス可キ男子ノ大數ヲ沙汰シテ尙富メル者ハ免役料二百七十圓ヲ拂ヘバ則チ免カル可シ斯ノ如クシテ實ニ服役スル者ハ全國男子ノ少數ニシテ假令ヒ徵募ノ兵員ヲ滿タスニ差支ハナシト雖其前ノ第三條ニ掲ケタル徴兵ノ一令ヲ

以テ全國ノ士氣ヲ振興シ國中ノ男子ヲシテ悉ク武邊ニ慣レシメント  
 スルノ目的ニ達スルハ或ハ難キコナラン遺憾ニ堪ヘザルナリ抑モ戶  
 主ハ一家ノ主人ニシテ家ヲ治ルコト大切ナリ親ニ事ルハ孝行ノ道ニシ  
 テ孝ハ百善ノ本ナリ官員ハ既ニ天下ノ公用ニ心身ヲ役スルモノニシ  
 テ官途ノ事甚ダ重シ學士ハ文ヲ以テ國ニ盡スモノナレバ恰モ分業ノ  
 姿ニシテ文モ亦甚ダ貴シ云々ト云ヘバ何レモ之ヲ聞テ一理アラザル  
 ハナシト雖也一國ノ兵ヲ以テ内外ノ憂患ニ備ヘ又コレニ當ルハ一家  
 ニテ火災盜賊ニ用心シ又事ニ臨テ之ヲ働クモノニ異チラズ然ルニ今  
 一富豪ノ家ニ雇ハレタル者共ガ火災盜難ヲ防カントスル時ニ當テ通  
 ヒノ番頭ハ別家ノ戶主ナルガ故ニ主家防禦ノ人數中ニ加ハラズ其次  
 ハ壯年ナレトモ老親アルガ故ニ亦人數中ニ加ハラズ其次ハ專ラ帳場ノ  
 用ニ忙ハシキガ故ニ亦然リ其次ハ最モ算筆ノ藝ニ達シタルガ故ニ亦

然リト次第ニ數ヘテ僅ニ新參ノ若者ノミチ殘シ他ハ皆袖手シテ家ノ  
 大事ヲ傍觀ス可キヤ讀者モ其不可ナルヲ知ルコナラン家ニシテ不可  
 ナリ國ニシテ可ナランヤ我輩ハ全國兵ノ全ノ字ヲ其字義ノ如クニシ  
 テ實際ニ全國ナラシメンコトヲ祈ル者ナリ  
 前節ニ云ヘル如ク今ノ徵兵令ニテハ戶主ハ免カレ老親アル長子ハ免  
 カレ官員ハ免カレ學士ハ免カル純然タル全國兵ノ字義ニ從ヘバ既ニ  
 已ニ公平ヲ失フモノナレトモ成法ノ許ス處ナレバ姑ク之ヲ公平ナリト  
 スルモ民間ノ事實ニ於テ尙甚ダシキ不公平アリ即チ徵兵遁ナルモノ  
 是レナリ抑モ此徵兵遁ノ字面ハ國民ノ苟モ筆ニス可キモノニ非ズ口  
 ニス可キモノニ非ザルハ法律上ニ於テモ德義上ニ於テモ明白ナリト  
 雖トモ今日ノ實際ニ之ヲ筆シ之ヲ語テ殆ト怪シム者モナク又恥ル者  
 モナキガ如キハ其詐僞既ニ民間ノ習慣ヲ成シテ通用ノ廣キ明証ト云

フ可シ徵兵遁ノ方略一樣ナラズ分家ノ策アリ養子ノ策アリ絶家相續ノ策アリ仮ニ小吏タルノ策アリ官立公立ノ學校ニ入テ卒業免狀ヲ得ントスルモ其内實ハ徵兵ノ爲ニスルモノアリ尙甚シキハ年老シテ貧窮ナル者が一錢ノ財産ナキニモ拘ハラズ其戸籍ヲ利用シテ養子ヲ求レバ他家ノ二三男ハ私ニ多少ノ錢ヲ投シテ徵兵遁ノ便ヲ買フ者アリト云フ故ニ名ハ養子ニシテ其實ハ養父ノ所在ヲモ知ラズ戸主ニシテ家ナシ老親ヲ養フ者ニシテ親ノ面ヲ知ラズ人事ノ沙汰ノ限ニシテ當ニ徵兵令ノ爲ニ不都合ノミナラズ全國戸籍ノ實ヲ錯乱スルノ恐ナキニ非ズ政府ニテモ是等ノ惡弊ヲ知ラレタルヲナラン徵兵令ノ改正ヲ以テ稍ヤ嚴密ヲ加ヘタルガ如クナレハ法令隨テ密ナレハ之ヲ遁ルノ惡策モ亦隨テ巧ニシテ殆ト底止スル所ヲ知ラズ結局我輩ノ所見ニテハ全國ノ男子ヲ包羅シテ一人モ漏ラスナキノ一法ヲ定ルヨリ他ニ

依頼ス可キモノアラザルナリ

右ノ次第ナルヲ以テ我輩ハ全國兵ノ眞ノ主義ニ從ヒ國中ノ男子ハ戸主モ嫡子モ學士モ官員モ一切コレヲ免サズシテ服役セシメ假令ヒ其体格兵士ニ適合セザルモノニテモ苟モ白痴風癩又ハ癱疾不具ニシテ尋常一個人ノ業ヲ執ルヲ能ハザル者ノ外ハ直ニ兵ニ役スル歟又ハ兵役ヲ納メシメント欲スル者ナリ蓋シ爰ニ免役料ト云ハズシテ免役税ノ字ヲ用ヒタルハ彼ノ血税ノ税ノ字ヲ轉用シタルモノニシテ全國兵ノ主義ニ税トアレバ即チ國税ニシテ全國ノ男子皆コレヲ負擔スルノ義務ナカル可ラザルガ故ナリ且現行ノ免役料ハ國中ノ二三男以下偶々身体ノ偏強ナル者ニ限リテ兵ニ役セラレントシ之ヲ免カル、ガ爲ニ直ニ其本人ヨリ出スモノニシテ戸主又ハ嫡子ナラハ格別ナレハ家モナク財産モナキ二三男ノ身分ニ二百七十圓ノ金ハ負擔ノ重キモ

ノト云ハサルヲ得ズ若シモ此免役料ヲ税ト視ルトキハ有産ノ戸主ハ  
 税ヲ免カレテ却テ無産ノ二三男ニ負擔セシムルノ實ヲ見ル可シ國稅  
 ノ性質ニ非ザルナリ故ニ寧ロ免役料ノ名ニ代ルニ兵役稅ノ文字ヲ以  
 テシテ全國ノ男子唯皇族ヲ除クノ外一名モ免スナク生レテ二十歳  
 ニ至レバ三ケ年ノ間身躬カラ役ニ服スル歟然ラサレバ三ケ年ノ間兵  
 役稅ヲ納メシメテ其常備軍役ヲ免スルコト公平至當ノ法ナラント信ズ  
 右ノ主義果シテ公平至當ナラバ其實施ノ法ヲ案スルニ統計年鑑明治  
 十三年人口ノ調ニ全國ノ男子二十年以上五十年未滿ノ者七百五十八  
 万五千百三十八名トアリ之ヲ三十分シテ其割合ハ少者ノ方多カルベ  
 キガ故ニ滿二十年ノ者ハ大數二十六万ト仮定シ此内十分ノ一即チ二  
 万六千ハ白痴風癩不具癈疾ノ者トシテ殘二十三万四千ノ數アリ又此  
 内ヨリ現役ニ服スルモノヲ三万三千トスレバ常備凡ソ十万ノ豫算殘

ノ大數二十万アリ即チ服役セズシテ兵役稅ヲ拂フ可キ者ノ數ナリ二  
 十年ノ者二十万ナレバ二十一年二十二年ノ者モ各二十万ニシテ合計  
 六十万ノ免役者ヲシテ兵役稅ヲ納メシムルコト各金五圓ト定ルキハ每  
 年三百万圓ノ金ヲ得ベシ此金ヲ以テ現役者三万三千ノ毎年除隊スル  
 者ニ給與スレバ一名ニ付凡ソ百圓ノ割合ナル可シ即チ兵士ハ三年ノ  
 苦役ニ百圓ノ金ヲ携ヘテ故郷ニ歸ルカ故ニ自カラ又生計ノ緒ニ就ク  
 ナ得ベシ顧テ免役者ノ有様ヲ見レバ三ケ年ノ間ニ十五圓ヲ拂フノミ  
 ニシテ苟モ家産アル者ニハ苛重ノ責ニ非ズ仮令ヒ苛重ナリト云フモ  
 恰モ他人ノ快樂ト生命トヲ買フテ自カラ免カル、モノナレバ毫モ不  
 平ノ訴フ可キモノナシ或ハ貧家ノ戸主子弟ノ如キ之ニ堪エズト云フ  
 者モアラソナレトモ現役ニ服スルモ家ニ勞スルモ區別アル可カラス如  
 何ナル男子ニテモ不具癈疾ニ非ズシテ二十年ヨリ二十二年ノ間ニ強

健ノ身体ヲ以テ自カラ勞スル歟又ハ他人ニ雇ハレテモ一年ニ五圓ノ金ヲ得ルハ至難ノ事ニ非ズ、身自カラ徵兵ノ現役ニ服スルノ覺悟ヲ以テ勞役ス可キハ無論ノコトニシテ同國同胞ノ義務ニ於テ免カル、ノ路アル可ラザルナリ

前年福岡縣下ニテモ有志者ノ商議ニテ徵兵ノ責ヲ全國ノ男子ニ平等ニ負擔セシメントノ趣意ヲ以テ大政府ニ建言ヲ企テダリト云フ或ハ又聞ク所ニテハ全國ノ事ハ姑ク閣キ其地方一郡ニテモ協議ヲ以テ全郡ニ其負擔ヲ等分セントノ議ヲ起シ粕屋郡ニテハ本年ヨリ之ヲ實施スルコトニ決シタリト云フ其趣意ハ本文ト大同小異唯護國ノ義務ヲ一様ニ分チ漫ニ苦役ヲ遁レントスル惡弊ヲ除テ現役ニ服スル者ニ厚ウセントスルノ旨ニ外ナラズ左レバ本編ノ所論ハ獨リ我輩ノ發意ニ非ズ日本國中說ヲ同ウスル者ハ既ニ多キコトナラント信ズ

以上所記ノ法ニ從ヒ之ヲ施行シタル上ニテ其實際如何ヲ案スルニ方今二百七十圓ノ金ヲ出シテ尙免役ヲ願フ者アル其最中ニ僅ニ十五圓ヲ拂フテ可ナリトアレハ國中徵募ニ應スル者ナカル可シトテ掛念スル者モアル可ケレヒ我輩ノ所見ハ之ニ異ナリ天下ニ閑散ノ壯年甚ダ多シ彼ノ巡查ヲ見ルニ一月ニ十圓内外ノ給料ヲ収領シテ眠食ヲ自費ニシ獨身ニテモ毎月殆ト餘マス所ノモノナカル可シト雖ヒ志願ノ者ハ常ニ絶ルコトナシ左レハ兵士ガ衣服眠食ノ費ヲ一切官ニ仰キ毎月些少ノ錢ヲ得テ遊歩等ノ雜費ニ供シ私費トテハ一錢ヲ失ハズシテ三ケ年ノ役ヲ終レハ凡ソ百圓ノ金額ヲ抱テ故郷ニ歸ル可シ苦役固ヨリ苦ナリト雖ヒ巡查ト伯仲ノ間ニシテ百圓ノ金員ハ則チ貧家ノ子弟ニ於テ連城ノ壁ナリ我輩ハ必ズ現役人ニ乏シカラザルヲ信スル者ナレヒ萬々一モ其乏シキヲ覺ヘタラハ兵役稅ノ十五圓ナルモノヲ少シク増

シテ滿年給與ノ金額ヲ多クス可キノミ其事甚ダ易シ之ニ反シテ我輩  
 ガ信スル如ク却テ現役ニ應スル者多キニ過ルコトアラバ從前兵士ノ身  
 ノ丈ヲ五尺以上ニ限リタルモノヲ増シテ五尺三寸ト爲シ又五尺五寸  
 ト爲シ以テ其以下ノ者ヲ除去スレバ自由ニ其人數ヲ限ルノ方便ト爲  
 リ幸ニシテ我常備兵士ニ一層ノ壯觀ヲ増ス可シ之ヲ一見シテモ心地  
 ヲキコトニコソアレ左レハ徵ニ應スル人員ノ多寡ハ毫モ苦慮スルニ足  
 ラザルナリ

又爰ニ一ケ條ノ差支ハ右ノ如ク兵役稅十五圓ヲ以テ免役ス可キモノ  
 ナレバ富家ノ戸主子弟ガ此金ヲ愛マザルハ無論官員モ學士モ其他苟  
 モ貧家ノ壯年ニシテ兵役ヲ以テ金ヲ得ント欲スル者ヲ除クノ外ハ悉  
 皆錢ヲ投シテ苦役ヲ遁ル、ヤ必然ノ勢ニシテ國中ノ兵ヲ知ル者ハ唯  
 貧者ニ限リ他ハ自然ニ文弱ニ流ル、ナキナ期ス可ラズ元來全國兵ノ

法ニ最モ大切ナル目的ハ前節第三條ニ云ヘル如ク國中一般ノ士氣ヲ  
 振興シテ武邊ニ慣レシムルニ在ルノミ然ルニ國民ノ一般ヲ兵ニ用ヒ  
 テ一半ヲ放却スルガ如キ勢ニ立至リテハ全國兵ノ大主義ニ背クモノ  
 ナリトノ說アリ此差支ハ最モ大ナルモノニシテコレニ就テハ我輩初  
 ムリ考フル所ナキニ非ス抑モ我輩ガ兵役稅ヲ以テ免役スルトハ唯其  
 三ケ年間ノ常備軍役ヲ免スルノミニシテ全ク兵事ノ關係ヲ解クノ意  
 ニ非ズ仮令ヒ兵役稅ヲ拂フタル者ニテモ二三ケ月ノ間ハ必ス訓練セ  
 シムルコト要用ナル可シ例ハ國中ニ常備軍役ヲ免カレタル者二十万  
 人アリトスレバ三ケ月ノ間ハ屯營ニ眠食セシメ戎服ヲ服セシメ戎器  
 ヲ授ケ純然タル兵士ノ取扱ヲ受ケシメテ家ニ還ス可シ固ヨリ此三ケ  
 月ニテ訓練ニ上達スルコトハ難カル可シト雖ヒ大小銃砲ヲ取扱ヒ或ハ  
 騎馬或ハ体操目ニ白刃ヲ見テ耳ヲ砲聲ニ慣ラス等柔弱ノ心情ヲ驚破

シテ勇武ノ氣ヲ養ヒ他日事ニ臨テ必ス用ニ適スベシ即チ全國兵ノ大  
 眼目ナリ但シ二十万ノ兵員チ一年ニ三ヶ月訓練スルニハ常ニ五万人  
 チ容ル可キ屯營ヲ設ケテ戎器戎服等一切ノ需要品ヲ備ヘザル可ラズ  
 固ヨリ各地方ノ者チ一處ニ喚集ス可キニ非ザレバ國中便利ノ地ヲ撰  
 ヒ幾十幾百ノ屯營訓練所ヲ設ケテ之ヲ教フルヲ要用ナラン、或ハ官員  
 其他ノ者ニモ一年ノ間ニ必ス三ヶ月ノ暇ヲ得ルヲ難キ者モアル可シ  
 或ハ當病ニテ差支ノ者モアル可シ若シモ然ルキハ毎年一ヶ月ツ、三  
 年合シテ三ヶ月ニスルモ可ナラン或ハ滿二十歳ヨリ二十九歳ヲ限リ  
 十年ノ間不得止差支ノ年ハ次第ニ送リテ必ズ其中ノ一年ハ三ヶ月ノ  
 入營ヲ命スルモ可ナラン唯事ノ宜シキニ從テ處置ス可キノミ  
 右ハ唯我輩ガ机上ノ立案ニシテ今ノ陸軍ノ事情サヘ詳ニ知ラザル程  
 ノヲナレバ實際ニ臨テハ必ズ差支モアル可シ例ヘバ兵役稅毎年五圓

ニシテ三ヶ年十五圓ノ金額ハ適宜ナル歟、常備兵員滿年ノ給與ハ百圓  
 ニシテ適宜ナル歟、免役者チ入營セシムル日數ハ三ヶ月ニシテ十分ナ  
 ル可キ歟、其入營ノ間ハ固ヨリ官費ヲ以テ眠食セシムヘシト雖モ旅費  
 ノ如キハ自辨タルベキ歟、又ハ入營費モ其一部分ハ本人ニ負擔セシム  
 可キ歟云々ノ談ニ至テハ固ヨリ陸軍當局者ノ實地經驗ニ從テ其法ヲ  
 制定セザル可ラズ唯我輩ノ所望スル處ハ全國兵ノ大主義ニ據リ日本  
 國中ニ生レタル男子ハ其職業ノ如何ヲ問ハズ、其家族ノ有様ヲ問ハズ  
 貧富ヲ問ハズ、貴賤ヲ問ハズ、一樣平面ニ護國ノ責ヲ負擔セシメントス  
 ルニ在ルノミ言少シク重複ニ屬スレモ今日徵兵ノ現情ヲ見ヨ戸主ハ  
 免役ト云フ其戸主ノ戸ハ何レニ在ルヤ家ナク産ナク他人ノ家ニ寄食  
 スル者ニテモ戸主ハ則チ戸主ニシテ傲然タル者多シ、長子ハ親ヲ養フ  
 ガ爲ニ免役ト云フ其親ハ巨萬ノ富チ有シテ錦衣玉食コレヲ養ヒ之レ

ニ事ル者ハ妻アリ又妾アリ長子ニ何ノ用カアラン之ニ反シテ貧苦極  
 リ僅ニ子供ノ力役ニ依テ老親ヲ養フモノハ兄弟協力スルモ尙足ラヌ  
 ト雖モ其弟ハ則チ次男ニシテ服役セザルヲ得ス官員ハ免役學者ハ免  
 役トハ國ノ爲ニ別ニ盡ス所アルガ故ナリト雖モ凡ソ國民トシテ營業  
 スル片ハ一ハ私ノ爲ニシテ一ハ自カラ國益ヲザルモノナシ此點ヨ  
 リ視レバ官途モ學問モ一種ノ營業タルニ過キス等シク國中ノ營業者  
 ニシテ厚薄ノ別アル可ラズ況ンヤ本編ノ案ニ從ヘバ免役ヲ欲シテ之  
 ヲ得ルコト甚タ易シ僅ニ一年數圓ノ金ヲ出シテ數月入營ノ苦役アル可  
 キノミ日本男子ノ身体ニ苦痛ト名ク可キ程ノモノニ非ザルナリ  
 又終ニ云フ可キモノアリ本編ノ案ニ從フキハ二十万ノ常備免役者ヲ  
 三ヶ月間訓練スルガ爲ニハ平均常ニ五万人ヲ入營セシメ其營所武器  
 戎服等ノ用意ヨリ訓練ノ士官ヲ命スル等陸軍ノ組織ハ今ニ比シテ一

倍ス可キコトナレバ又例ノ如ク費用如何ノ問題ニ到着スルハ固ヨリ必  
 然ナレモ我輩ノ所見ハ平生ヨリ今ノ陸軍ヲ以テ満足スルモノニ非ズ  
 之ヲ擴張スルニハ費額ヲ増スコト當然ノ數ナリト信ズ日本國民ノ資力  
 果シテ今日ヨリ一步ヲ進ルコト能ハザル歟封建ノ時代ニハ四十万家族  
 ノ兵士ヲ養フタルモノガ今日ハ人民自由殖産ノ道次第ニ進ムニ從ヒ  
 資力ハ次第ニ減却シテ十萬ノ兵ヲモ常ニ備ルコト能ハズ五萬ノ兵ヲモ  
 訓練スル事能ハザル歟怪シムニ堪ヘタリ然リト雖モ世ノ中ニハ怪シ  
 ム可キモノ多キガ故ニ一時ハ其怪シキマ、ニ閣クモ到底擴張ノ道ニ  
 進ム可キモノト覺悟ヲ定メタラバ今ヨリ速ニ計畫スル所アランコト祈  
 望ニ堪ヘザルナリ

右ハ我輩ガ昨明治十六年四月五日ヨリ同七日マテ時事新報ノ紙上ニ  
 分載シテ論シタルコトアリシガ時運ノ然ラシムル處ナルカ我政府ハ同

年十二月二十八日第四十六號ヲ以テ大ニ徵兵令ヲ改正シテ布告セラレタリ之ヲ左ニ掲ケンニ

改正徵兵令

第一章 總則

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ビ國民兵役トス  
第三條 常備兵役ハ別テ現役及ビ豫備役トス其現役ハ三個年ニシテ年齡滿二十歲ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四個年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五個年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス  
第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ニシテ常備

兵役及ビ後備兵役中ニ在ラザル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐節中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サズ  
第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ビ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但シ海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役

スル者ハ本令ノ限ニ在ラズ

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但シ常備兵役ノ全期ハ之ヲ減ズルコトナシ

第十條 年齢二十歳ニ滿タズト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

第十一條 年齢滿十七歳以上滿廿七歳以下ニシテ官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム

其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命ズルコトアル可シ但シ常備兵役ノ全期ハ之ヲ減ズルコトナシ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及官立公立學校(小學校ヲ除ク)ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期未ダ終ラ

ズト雖モ歸休ヲ命ズルコトアル可シ

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實查ノ爲毎年一度點呼ヲ爲ス但シ海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次デ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ビ兵員實查ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

### 第三章 免除及ビ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵檢査規則

ニ照シ兵役ニ堪ヘザル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ猶豫ス但シ其年補充員不足スル

トキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應ズル者ノ内一人及ビ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主癱疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲グル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ビ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未ダ定尺ニ滿タザル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未ダ勞役ニ堪ヘザル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトトテ問ハズ復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但シ戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項 官吏判任以上及ビ戸長

第二項 教導職試補ヲ除ク

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラザル技術ノ職ヲ奉ズル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ  
第二十二條 左ニ掲クル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラズ

第一項 附籍戸主及ビ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルニ非ズ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ズシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項 年齢六十歳未滿ノ戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルニ非ズ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ズシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼ギタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ビ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經ザル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戶主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルニ非ズ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ズシテ戶主ヲ罷メ其跡ヲ續ギタル戶主

第七項 年齡六十歲未滿ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルニ非ズ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ズシテ戶主ヲ罷メ其跡ヲ繼ギタル戶主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルニ非ズ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ズシテ戶主ノ死亡跡若クハ戶主ヲ罷メタル跡ヲ繼ガズ他ノ者ニシテ其跡ヲ繼ギタル戶主

第九項 戶主失踪シテ五個年ヲ經ザル者ノ跡ヲ繼ギタル戶主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項(陸海軍生徒ヲ除ク)第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖ヒ第三十五條ニ示シタル徵兵各自届出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ非ズ

第四章 徵兵區及ビ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ビ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但シ府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク

軍管及ビ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲グ

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但シ現役徵員及ビ其補充員不足ス

ルキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ  
 海軍及近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス  
 第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス  
 府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身軀檢査終リタル後兵役ニ適ス可  
 キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム  
 第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總  
 代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム  
 第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應ジ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤  
 箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ  
 總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉グル所ノ  
 番號ヲ高聲ニ呼バシメ其籤札ヲ受取り籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札  
 ハ總代人ニ交付ス

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤ト  
 シ其餘ヲ以テ補充籤トス

### 第五章 補充員及ヒ豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ  
 其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要  
 スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラザルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ビ第十八條  
 第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十  
 七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八  
 條第廿一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ビ第一豫

備徵員ヲ終リタル者年齢滿三十二歳迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但シ第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲グル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第三十三條 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルルキ之ヲ徵集ス但第二豫備徵員ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スルルキニ限ル

### 第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿十七歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主(本人戸主ナレバ自身以下戸誕生ノ主トアルモノ皆同シ)ヨリ本人ノ氏名族籍住所年月日及び職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ届ケ出可シ

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長

ニ届ケ出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但シ二十歳未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及バズ

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ニ及ビ第三十二條但シ書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄

ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但シ九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應ゼント欲スルトキハ其地ニ居住スル者(戸主)ヲ以テ證人ト爲シ八月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但シ第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ

第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス  
 第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事  
 由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出  
 可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條 第三十九條ニ掲グルモノ其年九月一日ニ至ルモ事故猶  
 止マザルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ  
 徴員ニ先チ徴集ス可シ但シ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルト  
 キハ翌年徴集ノ期ヲ待タズ徴集ス

第四十一條 兵役ヲ免レンガ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他  
 詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナク  
 検査所ニ參會セス又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者  
 ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直チニ現役ニ徴集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四

十條ニ掲グルノ者ニ先ダチ抽籤ノ法ヲ用ヒス徴集ス

第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ総テ其ノ入營年ノ四月二十日

(第四十一條ニ掲グルモノハ入營ノ當日ヨリ起算シ豫備役オヨビ後  
 備役年期ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但  
 禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期  
 中ノ日數オヨビ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出  
 チ爲サザル者及ビ検査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參  
 會セザル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 兵役ヲ免レンガ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ  
 毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ  
 重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



渡島 後志 石狩 天鹽 北見 釧路 日高 十勝 釧路 根室 千島

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス  
徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハズ北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣管下  
函館江差福山三個所ヲ限リ之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セシム

今コレヲ拜讀スルニ全ク我輩ノ宿論ニ符合スルニハ非ザレトモ舊令ニ  
比スレバ頗ル徵集ノ區域ヲ廣クシテ隨テ平等連帶ノ主義モ遠キニ達  
シタルモノナレバ我輩ハ此新令ノ布告ヲ見テ政府ノ美舉ナリト賛成  
セザルヲ得ズ舊令ニ癡疾不具ノ者及ビ懲役一年以上國事犯禁獄一年  
以上實決ノ刑ニ處セラレタル者ヲハ除役シテ戶主、獨子、獨孫、年齡五十  
歳以上ノ者ノ嗣子、養子、或ハ承祖ノ孫等ハ國民軍ノ外兵役ヲ免シ、五十  
歳未滿ノ者ノ嗣子、承祖ノ孫、陸海軍ノ生徒等ハ平時ニ於テ之ヲ免シ、父  
兄失踪又ハ癡疾不具等ニテ産ヲ營ム能ハザルガ爲ニ獨リ僅ニ一家ノ  
生計ヲ負擔スル者、又ハ官立學校ニ修業一ケ年ノ課程ヲ卒リタル者、又

ハ學術修業或ハ商用ノ爲ニ外國寄留ノ者等ハ一ケ年ツ、徵集ヲ猶豫  
シタル者が新令ニ於テハ全國ノ男子唯癡疾不具ノ者ノミニ限リテ兵  
役ヲ免除シ其餘ハ一切コレヲ猶豫スルノミニシテ免カル、ヲ得ズ戶  
主、六十歳舊令五十歳以上ノ者ノ嗣子承祖ノ孫ノ如キモ戰時若クハ事  
變ニ際スレバ之ヲ徵集シ、教正、官立大學校ノ本科生徒、中學以上ノ卒業  
生ニシテ教員タル者、又ハ學術修業ノ爲ニ外國ニ在ル者等ト雖モ其事  
故ノ存スル間ノミ徵集ヲ猶豫ストアリ又前ノ如ク戶主以下ノ者ニ猶  
豫免役ノ法アリト雖モ其性質ニ於テ附籍、分家、廢家再興ノ戶主及ビ其  
嗣子承祖ノ孫ハ之ヲ免セズ云々トテ別ニ條款ヲ掲ケ舊令ニ比スレバ  
頗ル綿密ヲ加ヘテ僥倖ニ免カル、ヲ許サズ俗ニ所謂徵兵遁ノ惡習モ  
之ガ爲ニ跡ヲ收ルコトナラシメ全國ノ男子連帶ノ事務ヲ實施シテ漸ク平  
等ニ近キモノト云フ可シ

右ノ外改正徴兵令ニ於テ舊令ヲ改メタル箇條ハ少ナカラズト雖モ其改正ノ要點ハ專ラ徴集ノ區域ヲ廣クスルノ趣旨ニシテ人民ノ感スル所モ亦唯コノ一點ノミニ在ルコトナラン例ハ附籍分家廢家再興等ノ事故ハ免役ノ効ヲ爲スニ足ラズ海外ニ寄留スル者ハ商用ニ兼テ力役スル者ニテモ従前ハ唯外ニ在ルノ故ヲ以テ免役シタレモ今後ハ實ニ學問ノ爲ニ外行スルニ非ザレバ無効ノ者ト爲ル等此類ノ數ヲ計ヘテモ少ナカラザルコトナランレモ就中每家ノ嗣子ニシテ其父六十歳未滿ノ者ハ悉ク服役スルノ一項ト都テ免役料ヲ廢シタルノ一項ハ甚シキ影響ニシテ此二箇條ノミニテモ徴集ノ兵員ニ不足ヲ告ルノ憂ナキノミナラズ其員數ハ常ニ多分ノ餘リヲ生シ隨テハ次第ニ身幹ノ定尺ヲモ長クシテ従前五尺ノモノハ五尺幾寸ニ改マリ軍隊ニ強壯力ヲ増シテ自カラ威風ヲ生ス可キヤ又疑ヲ容ル可ラズ又免役料ヲ許サズト

一四  
アレバ富貴ノ子弟ニシテ衣食ノ艱難ヲ知ラス常ニ軟弱ニ流ル可キ者ガ止ムヲ得ズ兵隊ニ入テ恰モ身体ノ教育ヲ蒙リ本來其種族ニ限りテ一種無力ノ習慣ヲ成ス可キモノヲシテ天下一般尙武ノ氣風ニ浴セシムルガ如キハ之ヲ小ニシテハ本人ノ一身ヲ健康ニスルガ爲ノ利益コレヲ大ニシテハ天下ノ兵氣ヲ振フガ爲ノ利益又コレヲ遠クシテハ其一身ヲ健康ニシテ其資力ヲ遺傳スレバ萬世ニ人種ヲ改良スルガ爲ノ利益ト云フモ可ナラン昔年封建ノ諸大名及ビ堂上公卿ノ如キ永ク太平ニ慣レテ兵事ヲ忘レ又コレヲ親ラニセズ深宮ニ生々シテ寒熱痛痒ヲ知ラス遂ニ其精神ヲ弛緩セシメタルノミカ身体ノ資力ヲモ傷リ盡シテ一身ニ人生ノ快樂ヲ享ルコト能ハズシテ禍ヲ子孫ニ遺シ健全ナル子ヲ生ムコトサヘ能ハザリシハ其例證トシテ見ル可シ啻ニ大名公卿ノミナラズ時ノ制度トハ云ヒナガラ彼ノ百姓町人が幾巨萬ノ財ヲ積ム

モ唯コレヲ肉体ノ安樂ニ供スルノミニシテ曾テ活潑ナル男子ノ舉動ニ慣レテ砲聲ヲ聞テ驚キ白刃ヲ見テ恐レ驕馬ヲ能セズ遊獵ヲ知ラズ心身共ニ萎縮シテ他ノ輕侮ヲ蒙リ眞ニ字義ノ如ク百姓町人視セラレタルモ亦一例トシテ見ル可シ今ヤ我日本ニハ大名公卿ナシ又百姓町人ナシ共ニ是レ大日本國民ニシテ共ニ自國ノ獨立ヲ護ル可キモノナレバ改正徴兵ノ一令以テ兵氣ノ振フ可キ區域ヲ廣クシ全國ノ男子貴賤貧富ヲ問ハズ共ニ護國ノ實役ニ服スルノ主義ヲ示シタルハ之ヲ政府ノ美舉ナリト評セザルヲ得ザルナリ人或ハ改正令ノ綿密ナルヲ見テ今度ノ徴兵法ハ苛酷ナリト云フ者モアラン歟其ハ凡俗ノ愚痴論タルニ過キズ我國ノ徴兵ニハ定數アリ唯財政ノ許ス限リニ從テ平時ハ若干ノ數ヲ備ヘ有事ノ時ニハ又若干ヲ増スノ法ニシテ其員數ハ今回ノ改正令ニ由テ増スニモ非ズ又減スルニモ非ズ左レバ今毎年幾万ノ

三四

兵ヲ徴集スル其兵員ノ出處ハ全國ノ男子滿二十歳ノ者幾十万人ノ中ヨリ擇フコニシテ従前ハ其男子ニシテ免役ノ部分ニ入ル者多キガ爲ニ例ヘバ一万ノ數ヲ抽クニ十萬中ヨリシタルモノガ今後ハ十五萬若クハ二十萬ノ中ヨリ一万ヲ抽クノ割合ト爲ル可ケレバ徴兵ノ法ハ前ニ比シテ酷ナルニ非ズ却テ大ニ寛チ加ヘタルモノナリ之ヲ喩ヘテ云ヘバ目方百貫目ノモノヲ十人ニテ擔フト二十人ニテ擔フトノ別アルガ如シ今ヤ徴兵ノ目方ハ従前ニ異ナラスシテ其負擔ノ人數ヲ増シタリ尙コレヲ酷ナリト云フ可キヤ我輩其理由ノ所在ヲ見ズ畢竟數ヲ知ラザル者ノ考ニシテ徒ニ驚ク者歟然ラザレバ舊令ニ從テ僥倖ニ免カレタル者カ其僥倖ヲ失フガ爲ニ數理外ノ不平ヲ鳴ラスモノニ過ギ言是等ハ事ノ最モ賸易キモノニシテ辨論ヲ費スニモ足ラスト思ヘドモ廣キ凡俗社會ニハ意外ノ說モ行ハル、モノナレバ念ノ爲ニ爰ニス一

ナ附スルモノナリ  
 我輩ハ前節ニ於テ改正徴兵令ノ美舉タルヲ賛成シタリト雖也此發令  
 ニ付キ一ノ願フ可キモノアリ又一ノ憂フ可キモノアリ其願フ可キモ  
 ノトハ何ダヤ云ク徴兵ニ當ルヲ忌ムハ世界中人情ノ普通ニシテ一個  
 人ノ私ニ就テハ我輩其情ヲ察シテ深ク之ヲ咎メズト雖也今其コレヲ  
 忌ム由縁ヲ尋ルニ必ズシモ苦役ノ苦ヲ苦シムガ爲ノミニ非ズ又必ズ  
 シモ戰場万一ノ死傷ヲ恐ルハガ爲ノミニ非ズ人間世界苦役ハ甚ダ  
 多ク又戰爭ニ勇ミ進ムモ壯年男子ノ血氣ニシテ事アルノ日ニハ其出  
 陣ヲ留ルニ苦シムノ例モ少ナカラズ左レバ今ノ我日本ノ國情ニシテ  
 徴兵ヲ快シトセザルハ其苦役ノ實ヲ憚ルヨリモ寧ロ其賤役ノ名ヲ嫌  
 フノ情ニ出ルモノ居多ナラント信ズ何故ニ之ヲ賤役視スルヤト尋レ  
 バ從前ハ免役料ノ法モアリ其他免役ス可キ箇條モ多キガ爲ニ社會上

流ノ人ハ大抵皆コレヲ免カレテ現役ニ服スル者ハ多クハ下流ノ貧賤  
 ナルガ故ニ賤者ノ位ズル地ハ其地モ亦自カラ賤シキガ如クニ見エ上  
 流ノ子弟ハ益コレヲ賤シミ之ヲ忌ムノ情ヲ起シ父兄モ亦其親愛スル  
 子弟ヲ驅テ賤役ニ入ルハ好マズ遂ニ昨日迄ノ事態ニ立至リシコトナ  
 ラン左レバ今日改正ノ令アリシコト好機會ナレ社會ノ上流富貴有力  
 ノ人々ハ斷然心事ヲ改メテ隗ヨリ始ムルノ例ニ效ヒ苟モ其子弟ノ徴  
 兵年齡ニ當ルモノハ仮令ヒ父兄又ハ知人縁故ノ力ヲ以テ見事ニ之ヲ  
 免カレテ成法ニ背カザルノ好方便アルモ特ニ其方便ヲ用非ズシテ自  
 然ニ任シ尋常一樣貧賤ノ子ト共ニ伍ヲ爲シテ現役ニ服セシメノコト我  
 輩ノ冀望ニ堪ヘザル所ナリ兵隊中既ニ富貴ノ子ヲ得ルキハ兵役爰ニ  
 面目ヲ改メテ復タ昔日ノ賤役ニ非ズ人情ノ働ク所決シテ爭フ可ラザ  
 ルノ事實ナリ其役既ニ賤シカラザレハ憚ル可キモノハ唯肉体ノ勞苦

ノミナレヒ壯年子弟何ゾ其勞ニ堪ヘザルコアラシヤ唯數日又數月ノ辛抱ニテ之ニ慣ル、コ甚ク易シ斯ノ如クシテ漸ク良家ノ子弟服役ノ門ヲ開キ次第ニ其員數ヲ増スルハ兵役モ亦一種ノ榮譽ト爲リ之ヲ外ニシテ全國ノ壯年ヲシテ自カラ進テ服役ノ念ヲ起サシメ之ヲ内ニシテハ隊伍ノ氣風モ自カラ其品格ヲ尙クシテ百事ニ利スル所少々ナラザル可シト信ズ然リト雖ヒ元來コノ一事ハ我輩ノ願フ所ナレヒ最モ人心ノ内部ニ立入りテ其主情ノ所在ヲ犯スモノナレバ實際ニ行ハル可キヤ否ヤ之ヲ明言スルコト甚ク難シ唯今回改正令ノ發行後一兩年ヲ經テ兵役簿ヲ調査シ之ヲ統計上ニ計ヘテ我輩ノ志願ヲ實際ニ達シ有力者ノ子弟ヲモ往々兵隊中ニ見ルコアル可キヤ或ハ然ラズシテ今日ノ言ハ徒ニ無益ノ贅言ナリシヤヲ知ル可キノミ

又第二ニ憂フ可キモノトハ今回ノ改正徵兵令ガ教育上ニ關スルノ一

事ナリ第十八條徵集ヲ猶豫スル者ヲ掲ケテ其第二項ニ官立府縣立小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者、第三項ニ官立大學校及ビ之ニ準スル官立學校本科生徒トアリ又第九條ニ官立府縣立學校小學校ヲ除クニ於テ修業一ケ年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六ケ年以内徵集ヲ猶豫ストアリ以上ハ兵役ヲ全國ノ男子ニ平等ニスルノ法ニ拘ハラズ又一方ニ其法ヲ以テ全國ノ教育ヲ害スルコトナカラントスルノ旨ヲ以テ特例ヲ設ケタルコトナラン而シテ此特例ノ私立學校ニ及ハザル者ハ官立公立ナレハ小學校以上以下ト明ニ分界ヲ定ム可キナレヒ私立ニハ其大小高下ヲ分ツコト難キガ故ニ一抹ニ之ヲ除去シタルコトナラン天下一般ノ大法ヲ設ルニ當テハ往々免カル可ラザルノ事例ナリト雖ヒ然リト雖ヒ方今我國ノ私立諸學校中隨分盛ニシテ其課程ノ低カラザル者アリ其私立校ニ業ヲ卒リタル

書生ニシテ官立公立學校ノ職員教員タル者常ニ多キノミナラス府縣立ノ中學校師範學校等ニテ卒業シ又ハ一時公立學校ノ教員タリシ者ニテモ尙其業ヲ研究センガ爲ニトテ特ニ私立學校ヲ擇テ入學スル者サヘ甚タ少ナカラズ其課程ノ低カラスシテ教育法ノ整頓シタルヲ明ニ見ル可シ然ルニ今天下ニ私立學校ノ多クシテ之ヲ類別スルノ難キガ爲ニトテ之ヲ例ノ外ニスルキハ全國ニ教育ノ區域ヲ減スルノ不利ハ決シテ少々ナラザル可シ我輩ノ特ニ憂ル所ノモノナリ或ハ云ク世間ノ學生必スシモ悉皆徵兵ニ當ル可キ資格ノ者ノミニ非ス少年ニシテ戶主アリ父ノ年齢六十歳以上ノ者亦少ナカラズ此輩ハ私立學校ニ入ルモ安ンシテ業ニ就ク可シトノ言モアレヒ戶主トアレバ少年ニテモ家ヲ去ルヲ易カラス又多年ノ實驗ニ據ルニ學生ニシテ六十歳以上ノ老親アル者ハ就學中ニテモ動モスレバ歸省又ハ退學ヲ促サル、チ

常トス徵兵令ニ於テ此二様ノ者ヲ免役セシムルモ即チ其家ヲ離ル、ノ難キヲ推察シタルモノヨリ外ナラス徵兵ノ爲ニ身ヲ動カスノ難キモノハ學問ノ爲ニ入校スルモ亦難キヲ言ハスシテ明ナリ論談ハ姑ク閣キ現ニ方今都鄙ニ脩業シテ稍ヤ高科ノ學ヲ學ブ生徒ニ就テ逐一其身分ヲ調査セヨ今度ノ徵兵令ニ徵集ヲ免カル、者ハ全數ノ半ヨリモ少ナク或ハ三分ノ一ニモ及ハサルヲナラン左レバ此徵兵ノ新令ノ如クシテ私立學校ノ爲ニ特例ノ行ハル、ヲナクンバ苟モ存立スルモノハ唯舊寺子屋若シクハ村夫子ノ家塾ノミニシテ其以上ニ上リ公立中學ニ準シ又ハ遙ニ其上流ニ位シテ高尙ノ教育ヲ司トル私立學校ハ一掃シテ廢滅ニ屬シ僅ニ小學ノ地位ニ下ル可キヤ又疑ヲ容ル可ラズ抑モ教育ノ法ハ甚タ廣キモノニシテ唯コレヲ官立府縣立ノ學校ノミニ一任シテ安心ス可ラズ古來ノ實驗ニ私學ヨリ人物ヲ出スノ多キハ

普ク人ノ知ル所ニシテ今日ニ於テモ其事實ヲ見ル可シ又財政ノ一點  
 ヨリ論スルモ官立公立ノ學校ニ毎年巨額ノ金ヲ費シテ教育シタル學  
 生ト曾テ官公ノ金ヲ要セズシテ教育シタル私學校ノ學生トチ比較シ  
 テ毫モ異ナル所ヲ見ズ故ニ古今ノ事實ヲ視テ教育ノ成跡ハ如何ナル  
 モノゾト熟考シ兼テ又經濟ノ要點ニ就キ所費ヲ少ナクシテ所得ヲ多  
 クスルノ法如何ス可キヤト思慮ヲ運ラシタラバ今度ノ徵兵令ニ關シ  
 テ私立學校ヲ調査シ其大小高下ヲ區分シテ之ニ特典ヲ與ルコト官立公  
 立學校ノ如クスルノ要ヲ發明スルハ容易ナル可シ如何ナル英明洞察  
 ノ眼アルモ我日本國百年ノ利害ヲ謀リ小學以上ノ教育ハ舉ケテ之ヲ  
 官立公立ノ學校ニ任シ古今私學ヨリ人物ヲ出シタルコト多キノ事實ヲ  
 抹殺シテ今後頓ニ其廢滅ニ歸スルヲモ憂トセス日本國中ノ私立學校  
 ハ唯小學以下ノ教ヲ司ラシメ小學校ト同様ノ取扱ニ附シテ安心ス可

キヤ我輩ノ憂ニ堪ヘザル所ナリ

全國徵兵論 終

明治十七年一月十一日御届  
同年同月出版

定價金十錢

拔萃兼出版人

大分縣士族

飯田平作

東京芝區三田二丁目  
二番地寄留

東京日本橋區通三丁目十一番地

發賣所

時事新報本局

慶慶義塾出版社

東京日本橋區銀座二丁目六番地

中近堂

同日本橋通三丁目

丸善商社

同芝三島町

山中市兵衛

大坂心齋橋筋備後町

中近堂支店

同備後町四丁目

梅原龜七

名古屋東本重町

中近堂支店

發賣所

福

39-1

著作